

土地  
利用仙石原保育園移転後の  
跡地利用について

くりを進める上で貴重な財産であると認識している。

現在、このまちづくりの根幹となる仙石原交差点改良事業が交通渋滞の解消や歩行者の安全確保などを目的に、右

折レーンやバスレーンの設置、歩道の新設、拡幅等の四つの工区に分けた整備計画をもって神奈川県を事業主体に小田



原土木事務所が事業化に向けて準備を進めている。

この事業には、町も積極的に協力しているが、一つの工区の完成には早くても5年程度の期間がかかり、まだまだ時間がかかるのではないかと伺っている。

そこで、この事業に合わせ、その周辺をまちづくりと考えていく必要があるという地元の意見から、平成12年度に仙石原総合地域整備協議会を中心にいろいろな意見をいただき、仙石原中心市街地まちづくり計画を策定した。

この計画では、保育園跡地の利用計画が重要なかきを握っていることから、その利用については、跡地の持つ可能性、整備波及効果など十分考慮の上、地元住民の意向を反映した具体的な利用プランを進めていく必要があると提言を受けている。

したがって、現段階では恒久的な施設利用ができないわけですから、交差点改良事業の進捗を見据えた暫定利用については、町職員で組織する公共施設配置研究会において地域の特性に合った利用

を検討するとともに、仙石原総合地域整備協議会にも相談し、その活用について考えていきたい。

また、まちづくり計画で提言された跡地利用についても、整備協議会を中心に十分な議論、検討を重ねていきたい。

いずれにいたしましても、仙石原地域を第4次総合計画で自然と遊べる高原リゾートゾーンとして将来像を位置づけており、その将来像にふさわしいまちづくりを地元の皆さんとともに協働して考えていきたい。

辞  
職

〔瀬戸勝彦議員の議員辞職〕

4月10日、瀬戸勝彦議員から議員辞職願が提出され、同日、地方自治法第125条の規定により、議長が辞職を許可しました。

瀬戸勝彦議員は、平成5年9月30日、箱根町議会議員に就任されて以来、9年6か月にわたり議員として活躍されました。

編  
集  
後  
記

紫陽花が箱根に咲き、一雨ごとに、彩りを増していきま

す。

二十一世紀が日本の時代と言われたのは、何年前の話だったのでしょうか。

出口の見えない不況は、ますます悪化の一途をたどっているように思われます。

箱根町の財政も平成15年度予算で赤字町債を発行するまでに厳しくなってきました。

町では、新税の導入も検討されているようです。

町民への新たな負担は、極力避けたいものです。

しかし、近い将来行政サービスの見直し、あるいは新たな負担の増加について、町民自身に選択していただくければならない時が来るかも知れません。

無駄や無理をなくし、財政の健全化に努めてまいります。

(天野記)

議会だよりはね

編集委員会

委員長 勝呂昌子

副委員長 小川鶴雄

委員 員 天野 渉

暫定的な利用は考えているのか。また、第4次総合計画による仙石原地域の将来像にふさわしい跡地利用をどのように考えているのか。

A この場所は、付近に商店が集積する仙石原市街地の中心的な位置にあり、中心市街地のまらち